

お知らせ  
イベント情報を  
ホームページで掲載!



# 虹のたより号外

コープおおいた機関紙

信頼される商品を食卓へ!



## 2019年 福島訪問報告

### 震災から8年、ふくしまのいまを伝える

2011年の東日本大震災ならびに東京電力福島第1原子力発電所の事故以降、ふくしま復興支援活動として毎年行なっている福島訪問。今年は4月16日(火)から18日(木)までの3日間訪問し、ふくしまの現状と課題について学んできました。参加したコープおおいた職員の幸文夫が「ふくしまのいま」をレポートします。

コープふくしまは2019年3月21日(木)に「みやぎ生協」「福島県南生協」と合併しました。合併後、「みやぎ生協」が存続法人となり、福島県内の事業所はこれまで同様「コープふくしま」として引き続き活動しています。

#### 1日目 4月16日(火)

私たちはJAふくしま未来のモニタリングセンターを訪ねました。ここでは「農産物放射性物質検査」を行なっており、そのことについてお話をいただきました。

検査方法は品目ごとに定められた部位を細かく粉碎して行ない、20分程度で放射性セシウムの数値結果が出ます。JAふくしま未来では、安心・安全な農産物を提供するために放射性物質のモニタリングをしつかりと行なっています。



農産物放射性物質検査

また、生産者の方々に農薬などの散布状況や日誌をつけてもらうことにより、栽培や出荷の管理を厳密に行なっています。さらに「トレーサビリティ」を行ない、安全性を確保できた商品のみを選果場や直売所へ持ち込むことができます。

※トレーサビリティ  
「その製品がいつ、どこで、だれによって作られたのか」を明らかにすべく、原材料の調達から生産、そして消費または廃棄まで追跡可能な状態にする。

この管理システムにより福島県の農産物の信頼も回復しつつありますが、いまだ風評被害があるそうです。今回の交流を通じて学んだ内容を大分へ持ち帰り、伝えていく活動の大切さをあらためて感じました。モニタリングセンターでの説明後、桃を栽培している圃場へと案内していただきました。今年の状況の説明を受けました。



桃の圃場

桃の花を見ながら「10日ほど前、枝上に約10cmの雪が積もりましたが、例年より2日は早く開花したため問題はなideしょ」と聞き、いつも桃が食べられると安心しました。

#### 2日目 4月17日(水)

近年は、さくらんぼ、りんご、ぶどう・桃を中心に複合経営農家が増えており、これからの成長が楽しみです。

相馬市の松川浦大橋を訪ねました。津波が橋の上約10mまで達していたと聞き、自然の脅威をあらためて感じました。

その後、伝承鎮魂祈念館を訪ねました。この祈念館は震災の犠牲者を追悼し、残されたご遺族の心のよりどころとして建てられました。東日本大震災の津波により被災した尾浜・原釜地区、磯部地区の震災前風景や地域の催しなどの写真、震災当日の映像記録などを後世に伝えるため展示しています。こちらで映像記録の視聴を行ない、震災当時の状況を知らることができました。

次に新地町役場を訪問し、大堀町長、佐藤副町長より震災前の状況から現在、そして今後について説明を聞いていただきました。

役場2階に展示しているジオラマを通して、震災前の新地町の紹介と、震災時緊急停止した電車に乗り合わせた警察官2名が乗客全員を丘へ誘導したことで無事避難できた話を聞きました。また、復興計画の説明では、町分譲地は完全したところで「よつこそ、そしておかえりな

さい。新地町へ」というスローガン達成に向け、大きく復興が進んでいる事を私たちも実感しました。



新地町役場

その後、新地小学校を訪ねし高橋校長より歓迎していただき、昨年度の「ふくしまっ子応援プロジェクト」のDVDを視聴しました。また、3年前の「熊本・大分地震の発災後に「ふくしまっ子応援プロジェクト」に参加した子どもたちが、「お世話になった大分に何か恩返しがないか。自分たちで何ができるか?と考え、中学生を中心に募金活動を行なったんですよ」という当時の話を聞き、あらためて「絆」の意味を再確認させられました。高橋校長から「今年は新地町の海も海水浴がでさそうです」という言葉に安堵しました。新地小学校ではコープおおいたが2012年に寄贈した「ぶんご梅」の前で集合写真を撮りました。



ぶんご梅の前で撮影した集合写真(新地小学校)

毎年大きな梅が大量に実をつけているそうです。

その後、新地町の復興シンボルでもある防災緑地公園への視察を行い、今年の4月に大分県生活協同組合連合会が植樹した「ぶんご梅」の苗木を見学しました。福島の地につかりと根付き、綺麗な梅の花を咲かせる日が楽しみです。

次に浪江駅へと向かいました。移動の際、大量のフレコンバッグ、中間貯蔵施設へ移送するための大型クレーンが何基も山林の中にそびえ立っている光景、すれ違う大型車両の多さ、車道での放射線量の案内板には違和感を覚えました。



大量のフレコンバッグ

浪江駅到着後、駅の周辺を見渡しました。2017年4月1日より駅の利用が再開したことは当時の報道で聞いており、多くの市民が再開を祝って混雑している様子が放送され、それが記憶に残っていました。しかし現状は復興とは程遠く、工事車両と警察車両のみが通行しているだけで市民を見かけることは殆どなく、帰還者は900名程度(震災前の約5%)との事でした。その後、富岡町のさくらモール富岡に移動しました。そこでは活気が溢れている感じがしましたが、駐車場には千葉や湘南などの県外車ナンバーが多く、作業着姿の方が店内に多くいました。スーパーの営業時間

も11時から19時で日曜は定休日という事からも「作業者の町」という印象を強く受けました。

その後、富岡町にある子安橋付近に移動し「福島第二原子力発電所」を視察しました。発災当時の状況をコープふくしま六戸副本部長にお話をいただきました。遠くに見える「原発」と目の前の復興工事の大きさが当時ここで何が起ったのかを物語っていました。

次に同じく富岡町の「夜の森桜並木」をめざして車を進めました。道中、帰還困難区域内で野生化した牛が身を寄せ合うようにして野草を食べている姿を見て、言葉にならない感情がこみあげました。「夜の森桜並木」では、樹齢100年を超える「ソメイヨシノ」が全長2.2kmに渡り道の両側に立ち並んでおり、勇壮さを感じる光景でした。



夜の森桜並木

その後、福島市内に戻り、何度か来県していただいている「浪江まち物語つたえ隊」の松田 小百合さんへお会いするため、県営北沢又回地大和田集会所を訪問しました。松田さんは「紙芝居」を通じて発災当時のことを多くの方に知っていただく活動を行なっています。前回大分で聞いた時の作品とは違っており、そのことを尋ねると話は0作品あるとのことでした。そのほとんどが実体験であるとい

うことを聞き、「生と死」について考えさせられました。



紙芝居で当時を語る松田さん

3日目 4月18日(木)

飯館村松塚 関根集会所へ佐藤美喜子さんにお会いするため、訪問しました。佐藤さんはコープおおいたの復興支援の活動において、「松川第二仮設住宅」訪問時にお世話になった方です。今年3月末をもって仮設住宅が閉鎖となり、近況をお伺いするためにお会いしました。佐藤さんのはからいで飯館村社会福祉協議会の安部事務局長をはじめ、14名の方にお集まりいただき交流会を行ないました。2〜3名の住民グループにコープおおいた職員1名が加わり、昔話から今考えている事、感じている事などを中心にお話を伺い、貴重な時間を過ごすことができました。



交流の様子

住民の方々に「この数年間で3度もコミュニケーションが変化した為、疲れは溜まりませんか？」とお聞きすると「人と人との繋がり・つきあいは生きていくうえで大事ですよ」と諭されました。飯館村の約8割は山林ですが、多くは除染されていないという話を聞いたうえで帰還された理由をお聞きすると「故郷ですから、最後の家はここで」という想いからです」とお答えいただき、今を生きる今から生き抜くという力強い意思を感じました。お別れの際には、数人の方が涙を流しながら握手を交わしあい「来てくれてありがとう」と嬉しい言葉をいただき、福島を離れました。

視察交流を終えて

私は震災の3年後に一度訪問し、前回のレポートを再読し、今回の訪問へ向かいました。前回は、職員2名で浜通り(福島県東部の沿岸沿い)を南下するルートでした。その時に訪問した相馬市のコープふくしま相双センター(長(当時)が、「3年経ちました、仲間が2名戻っていない」という話を聞き、筆舌に尽くしたい思いを抱いたことを思い返しました。

その後、各種報道を通じて時折みる復興状況により大きく前進していると思っていました。今回の訪問を通して帰ることができない状況がこんなにもあるのか?と大きなショックを受けました。前回の訪問時にコープふくしまの宍戸常務(当時)がお話された「ふくしまのことを忘れないでほしい」という思いを再び胸に刻み、ふくしま復興支援の輪をさらに広げなければと感じました。

ふくしまで、夏の思い出を作ろう!

ふくしま訪問ツアー 参加者募集!!

コープおおいたでは東日本大震災被災地復興支援活動のひとつとして、コープふくしまとの交流を続けています。本ツアーでは、生産者との交流を通して、果汁たっぷりのさくら白桃にかぶりつく「もも狩り体験」や、ふくしまの子どもたちとの交流など、楽しい企画が盛りだくさんです。ふくしまの現状を知り、多くの方と交流できる、年に1回の貴重な機会です。ぜひ、ご参加ください。

【日程】2019年8月20日(火)~22日(木) 2泊3日 【募集人数】10名

【参加費】大人1人(中学生以上)4万円 小人1人(小学生以下)2万円

※小学生以下の方が参加される場合は、保護者同伴での参加をお願いします。その場合、小学生以下2万円(1人)の参加費に加え、保護者の方含む参加費総額より10%引きにて参加できます。ただし、1家族に対し大人は2人までとさせていただきます。



行程予定	1日目	新地小学校の生徒たちとの交流 防災緑地公園の見学
	2日目	被災地の視察(富岡町・大熊町・双葉町・浪江町等) 東京電力廃炉資料館の見学 避難指示が解除された飯館村に帰還された皆さんとの交流
	3日目	桃の園場にて、生産者との交流と「もも狩り体験」 JAふくしま未来のモニタリングセンター見学



- 大分空港にて集合・解散となります。(1日目/8時50分ごろ発・3日目/19時30分ごろ着予定)
- ツアーの内容は、変更になる場合がございます。

申込締切: 7月14日(日)の消印有効  
組合員以外の方もご応募できます。  
(組合員以外の方は、員外とご記入ください。)

- 応募要項
- ①お名前(代表者)
  - ②組合員の方は組合員番号 (組合員以外の方は員外とご記入下さい)
  - ③住所 ④電話番号
  - ⑤参加者全員のお名前と年齢(代表者含む)

ハガキ  
ハガキ裏面に応募事項をご記入の上、下記の住所まで送付してください。  
〒870-0278  
大分市青崎1-9-35  
コープおおいた「ふくしま訪問ツアー」係

申し込みサイト  
申し込みサイトにアクセスし、応募事項をご記入の上、送信してください。



- ※応募人数が多数となった場合は初参加の方を優先し、抽選いたします。
- ※参加のご案内は、後日郵送にてお知らせいたします。
- ※参加者の皆さまには後日、事前説明会を開催いたします。
- ※ご記入いただきました個人情報は、「ふくしま訪問ツアー」参加申し込みに関する以外には使用いたしません。

お問い合わせは、商品政策室  
☎(097)524-0122